

◇ 郷土芸能、3年ぶりに「えりもの灯台まつり」で披露 ◇

8月14日、「第47回えりもの灯台まつり」が3年ぶりに開催され、町指定文化財の「えりも駒踊り」は、保育園児が大人と一緒に、ステージ上を所狭しと飛び跳ねまわり、躍動感ある踊りを、同じく「襟裳神楽」は、軽快なリズムのなか、迫力ある踊りを披露しました。

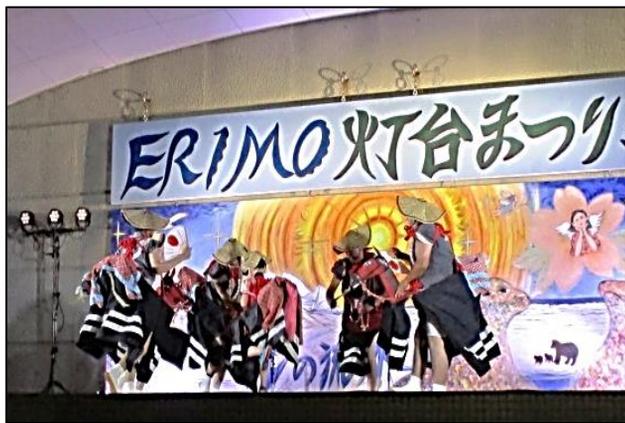


写真: 「えりも駒踊り 勇駒会」



写真: 「襟裳神楽保存会」

○えりも駒踊り

青森県太平洋側・岩手県南部周辺の出身者が、郷里を懐かしみ、見覚えのある駒踊りを参考に、独自の舞を創り出し、昭和10年(1935年)、住吉神社秋の例大祭から踊るようになったのが、始まりとされています。

踊りは、「流し馬」・「あい馬」・「あそび馬」の三つの基本形となっています。

現在、えりも高校では授業の一貫として、保存会(吉田忠喜さん、田名部光一さん)の指導を受け、「海と山の幸フェスティバル」で披露しています。

○襟裳神楽

「襟裳神楽」は、航海の難所と言われた襟裳岬沖を通る船の安全と大漁を祈願する舞いと伝えられています。

囃子・笛・太鼓・鐘の伴奏で、ひょっとこが獅子を躍らせる獅子神楽のスタイルを持ち、道内に現存する郷土芸能の中では、珍しい存在となっています。

保存会(駿河辰哉さん、川崎舞子さん)は、後継者育成のため、えりも岬小学校児童の「えりも岬少年神楽」へ指導を行っています。

町指定文化財「不動明王」

「不動明王」は、本町：法光寺の境内にある石碑の一つで、平成14年(2002年)3月20日に町指定文化財第4号に指定されています。

法光寺には、本町内各地から移設された石碑があり、この不動明王も、元来の設置場所から移設されたものと考えられます。

不動明王の碑文は、裏に文化十年癸酉三月 施主 高田屋」と書かれています。

文化9年(1812年)、のちの幌泉場所請負人 高田屋嘉兵衛は国後島においてロシアに捕らえられ、カムチャッカに移送されました。

嘉兵衛がロシアに捕らわれたことを知った高田屋は、嘉兵衛の出身地である淡路島や兵庫で、嘉兵衛と水主(船を操る人)たちの無事帰還を祈願する奉納を行っていました。

高田屋嘉兵衛が蝦夷地(松前)に帰還したのは、文化10年(1813年)7月17日だと言われています。

不動明王が奉納されたのは、文化10年であり、その時、嘉兵衛はロシアに拘束されていたことから、幌泉でも嘉兵衛らの帰国を祈願する法要

が執り行われていた可能性があります。

一般に「不動明王は」、浄菩提心をもって行者の諸願を成就し、諸々の災害を除き、また財富を与える仏尊として、古来より多くの信仰を集めています。

この「不動明王」は、江戸時代末の幕府、蝦夷地とロシアとの関係、場所請負人：高田屋嘉兵衛と高田屋の信仰と歴史を記録する貴重な文化財です。



写真：法光寺境内にある「不動明王」

9/1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
○	○	○	○	○	休館日	○	○	○	○	○	○	休館日	○	○	○	○

18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	10/1	2	3	4
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
○	○	休館日	○	○	○	○	○	○	休館日	○	○	○	○	○	○	休館日

9月～10月の
開館カレンダー